

## 市民マラソン大会のオンライン化に関する研究

1230433 小川達也

指導教員 前田和範

### 研究背景

日本では、スポーツツーリズムイベントの代表として市民マラソン大会が多く開催されてきたが、2020年から流行した新型コロナウイルス感染症の影響禍により、開催中止に迫られる大会が多く出てきた。対応措置としてマラソンのオンライン化が相次いで行われたが、すべての大会がオンライン化を取り入れたわけではなかった。そこで、マラソンのオンライン化にはどのようなメリットとデメリットがあるのかという疑問が生じた。

### 研究目的

本研究の目的は、市民マラソン大会がオンライン化をした（あるいはしなかった）プロセスがどのようなものであったか、また、オンライン化した（あるいはしなかった）要因を明らかにすることを研究の目的とした。

### 調査・分析方法

高知県における市民マラソンの実行委員会へのインタビュー調査を行った。調査対象は、オンライン化を取り入れなかった高知龍馬マラソン実行委員会、オンライン化を取り入れた仁淀川ふれあいマラソン実行委員会とした。

### 分析結果

高知龍馬マラソンがオンライン化を取り入れなかったプロセス及び、要因は3つある。他大会がすでにオンライン化を取り入れていた、実際に現地に来て観光してもらいたいといった思いがあったこと、別イベントの実施を早々に検討し始めていたことであった。一方、仁淀川ふれあいマラソンがオンライン化をするようになったきっかけは、ファインシステムという運営委託会社からの打診であった。オンライン化に際しての一番のメリットになったのは、運営の職員たちの負担がかなり軽減されたことや運営費用のコストを抑えることができることであった。

### 考察・結論

オンライン化が進んだ大会と、進まなかった大会は、開催地の環境に一番の要因があることが考えられる。市民マラソン大会は地域活性化につなげる動きが多く、観光への期待が大きいため、現地開催を望む大会が多くある。しかし、開催地域が観光スポット、交通機関などが少ない地域ではオンライン開催の方がこれまでの対面マラソンの課題解決に繋がると結論づけた。